

2006年1月1日掲載

## 富士山麓紀行／河口湖編

2006年1発目の「つれづれWEB」は、縁起のいい富士山ネタ。昨年末に行った、富士山麓のドライブの模様をお送りしよう。

師走のある月曜日、朝8時に自宅を出発。1時間ほどで、調布ICから中央道に乗る。

途中、談合坂SAで休憩。チビ助がいると、スローペースとなる。

SAでは、遠足もしくは林間学校と思われる小学生と遭遇。凍てつくような寒さにもかかわらず、タンクトップと半袖Tシャツの男の子がいたのだ。

私の小学生時代にも、冬でも半袖のヤツがいたが、今でも健在。少しうれしくなった。

談合坂SAをあとにし、河口湖ICを目指す。大月JCTで分岐をするが、「この先ユキ 走行注意」と表示が出る。

確かに、JCTを過ぎるとトンネルがあるが、まさかその先は雪が降っているのか？ そんなことを思いつつ、トンネルを通過する。

しかし、トンネルを過ぎても雪は降っているどころか、完全な晴天。表示は嘘だったのか？

でも、まんざら嘘でもなさそうだ。河口湖ICに近づくにつれ、沿線が雪景色に変貌していく。

前日に降った雪がまだ残ってはいるが、高速の上には雪はない。しっかり除雪されたためだろう。

その証拠に、河口湖ICから一般道に降りると、道には積雪が！ いくら我がグレカリブがフルタイム4WDでも、ノーマルタイヤなので一抹の不安を覚えてしまう。

しかしながら、積雪はたいしたことはなく、不安も解消。2001年秋以来ほぼ4年ぶりとなる、河口湖北岸の富士山撮影ポイントに向かう。

ここでの富士山は、2001年10月に掲載した「[富士五湖紀行](#)」(PDFファイル)に譲るとして、この場所の傍らにあったプチ富士山に注目。ここには、前日の雪で作ったかわいい雪だるまがあったのだ。

誰が作ったかは知らないが、高さはわずか十数cm。正直、心が和む。



河口湖をあとにし、朝霧高原へ。国道139号線を進む。

途中、4年前にも訪れた道の駅へ立ち寄る。ここでおみやげを購入することにした。

駐車場には雪が積もっており、我が息子にも初めて雪を触らせる。息子は、不思議そうな顔をして初めての感触となる雪の玉を握っていた。

道の駅を出発し、さらに国道139号線を進む。この続きは、[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)

## 富士山麓紀行／朝霧高原編

今月は、「富士山麓紀行」と題してお送りしているが、今回はその2回目。前は[こちら](#)をご覧ください。

国道139号線を進み青木ヶ原を抜けると、静岡県に。視界も一気に広がる。

それまでの森から、草原地帯へ。木々の間から見えた富士山も、何の遮るものもなくはっきり見えるようになったのだ。

時刻は12時、昼ご飯の時間。朝霧高原の道の駅に寄るが、おいしそうな飯屋がないのでパスする。

しばらく走り、富士ミルクランドに入る。ここでもバイキング形式のレストランがあったが、気が乗らない。

レストランの隣にある土産物店では、「ミルクランド」の名にふさわしく、乳製品が充実。嫁さんはヨーグルトを、私は牛乳を買い、とりあえず空腹を紛らす。

外に出て、富士山をバックに家族を撮影。富士山単体の写真も撮る。

上空を見ると、数分に1回、飛行機が東から西



へ飛んでいく。ちょうど、羽田から飛んだ飛行機が、西方面に向かう飛行ルートとなっているのだ。

このミルクランドには、ステージも用意されているが、平日ということもありイベントは何もなし。そこで、併設されている小さな牧場を訪れることにした。

子牛や羊、馬やダチョウ、合鴨や豚などが間近に見ることができる。その中で、豚が怪しい行動をしていた。

実は、雄豚が雌豚に乗っかり、腰を動かしていたのだ。必死に盛っている豚の姿を見た別の家族からも「いやだ～」というあきれた声が聞こえてきた。

また、小屋にいた馬にカメラを向けようとする、なぜ家屋に引っ込んでしまう。何かカメラでイヤな思い出もしたのだろうか？

ミルクランドを出発し、すぐそばにある白糸の滝に向かう。白糸の滝で、何と少しでも昼食を取りたいのだ。

この模様は、[こちら](#)に続く。

[[トップページ](#)]

2006年1月18日掲載

## 富士山麓紀行／白糸の滝編

「富士山麓紀行」と題してお送りしている今月の「つれづれWEB」だが、今回はその3回目。  
[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

富士ミルクランドで昼飯を食いっぱぐれた我々は、ひとまず白糸の滝へ。ここで、白昼飯への望みをつなぐ。

ほどなく、白糸の滝の脇にある土産物屋の駐車場に入る。この土産物屋には食堂も併設されているので、ようやく昼飯にありつけることができるのだ。

食堂に入っても、人の気配はない。何しろ、時刻は2時を回っているのである。

ここで、私は「白糸そば」を、嫁さんは「白糸うどん」を注文。これで、念願の昼飯を食うことができた。

車を止めた駐車場は、土産物屋で1000円以上の買い物をしないと有料になってしまうらしい。しかし、食事代で1000円を超えたため、難なく無料となった。

昼食を終え、いよいよ本題の白糸の滝へ。白糸の滝に向かう途中、実はもう1つの滝があるのだ。それは、「音止（おとどめ）の滝」。これである。



音止の滝も、白糸の滝も、どちらも芝川が分流したもの。右の流れに乗れば白糸の滝、左の流れに乗れば音止の滝になるのだ。

音止の滝から階段を数十段下れば、目指す白糸の滝。階段からも、美しい滝の姿が確認できる。

そして、滝の目の前に到着。平日、しかも月曜の昼間なのに、結構観光客がいるのだ。



よくよく考えてみると、ふくちゃんは滝が好きなのかもしれない。というのも、2002年1月の「[新春伊豆紀行](#)」でも、2003年5月の「[秩父路紀行](#)」(いずれもPDFファイル)でも、滝を訪れているのだ。

別に「滝マニア」ではないのだが、どういうわけか滝を見てしまう。滝の水滴から発生するマイナスイオンに引き込まれてしまうのが原因だろうか？

白糸の滝をあとにし、御殿場へと向かった。この続きは、[こちら](#)から見てもらおう。

[\[トップページ\]](#)

## 富士山麓紀行／雪道！編

今月は、「富士山麓紀行」をお送りしているが、今回は最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)は、それぞれをご覧ください。

白糸の滝を出発した我々は、御殿場のアウトレットを目指すことにした。御殿場へのルートは、実は複数あるのだ。

まずは、オーソドックスに東名高速。次に、それと並行している国道1号線と246号線。さらに、愛鷹（あしたか）山の北を通る国道469号線。もう1つは、もっとも富士山に近い富士山スカイライン。以上のルートが考えられる。

この中でも、せっかく富士山をほぼ1周しようとしているのだからと、富士山スカイラインを選ぶことにした。しかし、実はこの先とんでもない状況が待っていたのだ。

県道から、無料となった富士山スカイラインに入る。ここで、富士山を1500mほど登ることとなる。

標高も次第に高くなり、山に登っていることを実感。眼下には、美しい眺望も広がっている。

ところが、対向車のパンの配送トラックをよく見ると、チェーンをまいているのだ。ということは、この先は凍結か何かしているということなのだろうか？

さらに、交通案内表示によると、御殿場方面は事故のため通行止めだという。確かに、進むにつれ沿線に雪が見えてきた。

実は、前日には富士山麓は積雪があったのだ。河口湖でも積雪があったのだから、富士山に積雪があってもおかしくはない。

さらに車を進めると、路面に雪が見え始め、しまいにはアスファルトまで見えなくなってきた。そして、おぞましい光景を次々と目の当たりにするのだ。

まず、対向車線のトラックが、スリップのため林に突入！すでに救援のトラックもレッカーもすぐそばにいるようだが、対向車線はプチ渋滞が起きていた。

さらに進むと、路面は完全に雪道に。我がグレカリブはフルタイム4WDとはいえ、ノーマルタ

イヤなので一抹の不安を感じる。

そして、横転した軽自動車を発見！ パトカーが傍らにいたが、警官もどうしようか手をこまねいている状態だった。

さすがに、こんな状態では対向車も皆無。このまま進むと危険と判断し、PAで引き返して下山することにした。

途中の分岐で、来た道とは別方向に進み、富士サファリパークのある十里木高原へ。ここから、国道469号線に入る。

国道に入ると、積雪はないものの、多少危険な状態。そのせいか、4WDが林に突っ込んでしまい渋滞が起きていた。

標高も低くなり、路面状態も安全に。左右には東富士演習場が広がり、視界もよい。

ただ、演習場には柵がないので、知らないで林道のような道に入ると、そのまま演習場に勝手に入ってしまうことになるようだ。そんなんで流れ弾に当たったら……。

すっかり日も傾き、御殿場のアウトレットに到着。ここで、我が息子にブロックのおもちゃを購入する。

そして、ここで夕食。フードコートで食事していると、ただの飾りだと思っていた鹿の頭が歌い始めたのだ。

これに、我が息子がすかさず反応。大喜びだった。

夜7時となり、アウトレットも閉店。さすが富士山麓だけあって、水たまりも凍る寒さである。

東名高速で約2時間、途中海老名SAでの休憩や事故渋滞もあったが、無事帰宅した。

[\[トップページ\]](#)